

平成30(2018)年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

豊丘村

(長野県)

1. 当該地域の情報 (2019年1月現在)

地域の課題	昭和初期から第二次世界大戦まで行われた満蒙開拓事業によって満州に移住した人々は全国で27万人であった。そのうち長野県出身者は33千人と最多であり、更にそのうちの飯田下伊那地域出身者が8400人と県内最多であった。豊丘村では614人が移民として満州に旅立ったが、終戦の混乱で多くの死者、行方不明者、残留孤児が現地に残された。 昭和50年代から厚生省(長野県)によってすすめられた中国残留孤児の引き揚げ事業によって、豊丘村内の県営住宅に帰国者の入居が進んだ。その後においても、帰国者を頼った中国人の増加、或いは、日本人の妻、帰国者の妻として中国人が増えることにつながってきた。 こうした背景から、本村は近隣の飯田市に次いで外国人比率が高く、生活文化の違いや、日本語の不自由により、日常生活に必要な情報が十分に得られないことで近隣からの誤解、孤立が生じやすい。また、外国人住民自身の健康や、子どもの教育、地域防災、ゴミ処理など、課題を抱えている。また、近隣の町村では、外国人のための日本語教育の事業が行われておらず、広域的な観点からも豊丘村で日本語教室を開設する意味があると考えている。
在住外国人数 外国人比率	120人 1.78%
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】中国90人、フィリピン15人、ブラジル13人、他2人 【在留資格】永住者98人、定住者9人、永住者の配偶者4人、ほか9人 【滞在年数・在留期間などの状況】総人口に占める外国人比率が年々増加しており、最近の傾向としてブラジル、フィリピン国籍の住民が増えている。在留資格では永住者が80%を超えている。
在住外国人の 日本語教育の現状	平成29年度に日本語教室開設準備段階で行った在住外国人対象のアンケート調査によれば、回答者の7割が日本語の学習経験を持っていた。その多くは独学であったり、家族や友達、職場で教わる人もあった。中には専門的な資格を取得するため、近隣の飯田市内で語学の勉強をしている人もいるというものである。しかし、今、日本語学習者は在住外国人の3割に満たず、上記の地域課題を勘案して、豊丘村においても開設の必要があると判断し、29年度から日本語教室を教育委員会として開設した。2年目の平成30年度は前年度の8回に比し、13回の学習プログラムを用意して開設した。しかし、初年度において受講した日本語がおぼつかない学習者は、飯田市内で開かれる日本語習得の教室に通うようになった。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目			
事業の目的	外国人住民が豊丘村での生活に支障をきたすことなく、地域に溶け込み、コミュニケーション不足によるトラブルや悩みの解消につなげ、住民として自立して生活していけるように日本語教室を開設して支援し、これを契機に多文化共生の村づくりをすすめていく。			
事業の概要	①運営委員会を設置し、庁内調整をすすめ、協力体制を構築した。中間、年度末に教室運営の評価を実施し、次年度へ向けて村独自の支援のあり方を方向付けることができた。 ②教室運営のサポーターを拡充し、彼らをして教室の学習プログラムを立案するとともに、外国人住民の佳き隣人となることに心掛けた。 ③文化庁にアドバイザーの派遣を申請し、随時、指導と助言をいただいた。特に、3年度目の教室を開設することについては適切な助言があったと感じる。 ④6月から12月までの間、13回にわたって日本語教室を試行的に開設した。学習者が参加しやすいように開設日時の変更を途中で見直した。 ⑤学習者、サポーターによって一般村民に教室の活動をアピールする活動を行った。			
事業の対象期間	2018年4月～2019年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	○サポーターが事前に検討し、より生活に身近な学習プログラムを計画することができた。 ○サポーターの、外国人住民を支えたいという意識から、村にとっても外国人住民との共生が大切との共通認識が出来てきた。 ○教室活動の様子や、庁内関係課による日本語教室運営委員会により、役場内に外国人対策の必要性の認識が広がりがつつある。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	大澤 志那子		豊丘村コーディネーター	日本語教室担当
	波多野 智巳		〃	〃
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	石井 恵理子	東京女子大学	教授	継続 新規(2年目)
	春原 直美	長野県国際化協会	相談役	継続 新規(2年目)
	原 千代子	青丘社	事務局次長	継続 新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	教育委員会、公民館、村社会福祉協議会、村役場関係部署と連携して運営委員会を設置し、アドバイザー、コーディネーターの指導・助言を得て、教室の開設についての基本方針、日本語教育プログラムの作成、サポーターの育成について検討した。 講座の運営については、豊丘村教育委員会(公民館)が実施し、具体的には、コーディネーターとサポーターが中心となって進め、運営委員会において中間評価と総合評価を実施した。特に、3回目の運営委員会において、次年度も文化庁の支援を得るべきとの方向付けをいただいたことは大きい。 アドバイザー 教育委員会 役場関係課 社会福祉協議会 運営委員会 公民館 日本語教室(学習者・サポーター)		
	所属(担当課)	担当者名	職名
	教育委員会	昼神 毅	教育長
	教育委員会	熊谷 透	教育委員会事務局長
	教育委員会	塩澤 孝雄	主任教育支援員
	役場環境課	武田 徹	環境課長
	役場健康福祉課	川上さやか	保健師
	役場税務会計課	曾田 順平	窓口係主事
	村社会福祉協議会	片桐 明	会長
	公民館	原 国人	館長
		大澤 志那子	コーディネーター
		波多野智巳	コーディネーター

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制	前述の運営委員会と同じ		
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
前述の運営委員会と同じ			

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2018年 4月	4/15サポーター会議（飯田市の教室視察） 4/25サポーター会議でプログラム協議 4/27コーディネーター会議	教室開設のための調整	★事業計画について指導助言
2018年 5月	5/14サポーター会議で学習計画協議 5/23コーディネーター会議 5/30運営委員会	教室開設のための調整 〃 運営委員会出席、学習計画説明	★運営委員会指導助言
2018年 6月	6/14 文化庁での日本語教育空白地域解消推進協議会で事例報告 6/17 日本語教室開講「あいさつ」	事例報告 教室開講式で説明	
2018年 7月	7/ 1日本語教室「七夕飾り」 7/22日本語教室「買い物のかた」 7/24役場環境課と、学習計画協議 7/26教室第2次募集要項作成（日程変更のため）	日本語教室指導 ゴミの分別学習計画協議 第2次募集要項翻訳（中国語、英語）	
2018年 8月	8/ 9滋賀県視察 8/ 9日本語教室「ゴミの分別」 8/16コーディネーター会議 8/23日本語教室「消防団、日赤奉仕団活動の意味」	視察対応の説明 日本語教室指導 教室の進め方について協議	
2018年 9月	9/6日本語教室「レストランの注文」 9/14役場環境課と学習計画協議 9/19社協と学習計画協議 9/20日本語教室「ゴミの分別」	日本語教室指導 ゴミの分別、ストレッチ体操の学習計画調整	
2018年 10月	10/4日本語教室「ストレッチ体操」 10/5第2回運営委員会 10/16役場窓口係と学習計画協議 10/18日本語教室「役場の窓口手続き」	学習計画事前協議 日本語教室指導 運営委員会出席し、運営状況説明	★日本語教室視察、運営委員会指導助言
2018年 11月	11/1日本語教室「文化祭の展示発表パネルづくり」 11/8サポーター会議 11/15日本語教室「日本語の本を読む」 11/29日本語教室「日本語の本を読む」	日本語教室指導 サポーター会議指導助言	
2018年 12月	12/13日本語教室「年賀状、閉講式」 12/13第3回運営委員会 12/26コーディネーター会議	日本語教室指導 次年度計画づくりについての協議	★日本語教室視察、運営委員会指導助言
2019年 1月			
2019年 2月			
2019年 3月			

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称			豊丘村日本語教室「だんだんにほんご」				
外国人参加者について			[国籍] 中国3名、イギリス1名、ニュージーランド1名、アメリカ1名、デンマーク1名 [属性] 日本人の配偶者、AET、技能実習生			参加者数 (内 外国人数)	受講者7名 (内外国人7名) サポーター7名
開催時間数			総時間 26時間		内訳 2時間 × 13回		
目標			豊丘村の日常生活に役立つ事柄を身につける				
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2018年6月17日(日) 13:30～15:30	2	豊丘村交流 学習センター	3	オリエンテーション 自己紹介	・主催者あいさつ ・教室参加のルール ・自己紹介のための日本語	サポーター6名
2	2018年7月1日(日) 13:30～15:30	2	豊丘村交流 学習センター	1	七夕飾り	日本の七夕の物語を聞いて、短冊に願い事を書く	サポーター6名
3	2018年7月22日(日) 13:30～15:30	2	とよおかマル シェ (道の駅)	3	買い物のしかた	4月にOPENした道の駅で買い物をしてみる	サポーター4名
4	2018年8月9日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	2	ゴミの分別①	家庭ごみの分別方法を環境課職員から学ぶ	サポーター5名
5	2018年8月23日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	2	消防団、日赤奉 仕団って何？	教育長の講義から住民組織の役割を知る	サポーター5名
6	2018年9月6日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	3	レストランの注文	模擬レストランで客と店員になって役割を演ずる	サポーター6名
7	2018年9月20日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	2	ゴミの分別②	ゴミ分別方法を環境課職員から学ぶ	サポーター7名
8	2018年10月4日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	3	ストレッチ体操	ストレッチで体をほぐす 健康に関するお話	サポーター7名
9	2018年10月18日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	2	役場の窓口手続き	住民票の書き方、転入、転出の届けの手続きを役場 職員から学ぶ	サポーター5名
10	2018年11月1日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	3	文化祭展示発表	日本語教室の活動を紹介するパネルの製作	サポーター5名
11	2018年11月15日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	3	日本語の本①	有名な日本の物語の本を読みあわせる	サポーター7名
12	2018年11月29日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	5	日本語の本②	同上	サポーター5名
13	2018年12月13日(木) 19:00～21:00	2	豊丘村交流 学習センター	4	年賀状	年賀状を日本語で書いてみる	サポーター6名

【主な活動】



No.6「レストランの注文」



No.8「ストレッチ体操」



No.11「日本語の本①」

5. 今年度事業全体について

進捗状況	年間計画で示した学習は予定どおり実施できたが、途中で開催日時の変更を行った。
成果	○サポーターが事前に検討し、より生活に身近な学習プログラムを計画することができた。 ○サポーターの、外国人住民を支えたいという意識から、村にとっても外国人住民との共生が大切との共通認識が出来てきた。 ○教室活動の様子や、庁内関係課による日本語教室運営委員会により、役場内に外国人对策の必要性の認識が広がりつつある。
地域の関係者との連携による効果	運営委員会を構成する役場、社会福祉協議会関係者を講師に迎えたことで、本教室の理解が広がった。
コーディネーターの主な活動	①教室開設に向けた準備調整(10H) ②日本語教室運営のための調整(44H) ③運営委員会での説明、助言(6H) ④その他(4H) (具体的な内容:翻訳)
アドバイザーの主な助言	○日本語教室開設の意味は、異文化の人たちが集まることで村が活性化していくことであり、固定的な人で学習することから一歩進めて、外国人が力を発揮できる場を作り、一般村民も気軽に参加できるような教室運営をしてほしい。 ○(外国籍住民が多くいる) 県営住宅の人たちにもアプローチしてほしい。 ○今どきのSNSを使った、情報発信の工夫をしてほしい。
今後の課題	○学習者、サポーターの区別なく、多文化共生をめざす同じ仲間として活動をすすめる。 ○将来の自主運営をめざし、村単独の予算を必要最小限に確保してもらう。
今後の予定	文化庁の支援が確定次第、コーディネーター、サポーター、及び昨年の学習者により準備会議を開き、2019年の学習計画を立てる。尚、前期教室は6月～8月の間に6回、後期は10月～12月の間に6回、計12回の教室を開催する。また、その際に前期、後期各1回の一般村民対象の交流イベントを開催するようになりたい。

本件担当 : 豊丘村教育委員会 豊丘村公民館